

【2】四年制大学

令和7年度入試スケジュール

	私立大学					国公立大学
	学校推薦型 選抜	【一般方式】		【共通テスト利用方式】		
		前期	後期	前期	後期	
5月 6月	各大学の募集要項が出始める 共通テスト実施要項発表					
8月						
9月	推薦会議			共通テスト受験案内配布 共通テスト検定料払い込み		
10月	入学試験			共通テスト出願		
11月	入学試験 合格発表			出願内容をハガキで確認		
12月	入学手続	出願		出願		募集要項発表
1月		入学試験		大学入学共通テスト（本試験） 自己採点（共通テストの翌日） 大学入学共通テスト（追試験） 2次試験出願（国公立）		
2月		入学試験 合格発表 入学手続	出願	合格発表 入学手続	出願	2次試験（前期日程）
3月		入学手続	入学試験 合格発表 入学手続	入学手続	合格発表 入学手続	前期日程 合格発表 前期日程 入学手続き 2次試験（後期日程） 後期日程 合格発表 後期日程 入学手続き

大学入学共通テストについて

(1) 大学入学共通テストとは

「大学入学共通テスト」（以下「共通テスト」といいます。）とは、毎年1月中旬の土・日曜の2日間に全国で一斉に実施される、日本最大規模の試験です。共通テストの解答方法は「マーク式」のみですが、思考力・判断力・表現力等を一層重視した評価ができるよう、作問や出題形式の工夫が見られます。全体的に知識や解法の暗記のみで解答できるような問題は減少し、より理解の質が問われ、「思考力」「判断力」を発揮して解くことが求められる問題が重視されています。また、グラフ・地図・文章など読み取る資料の分量が多いことが特徴で、授業における学習場面、日常生活の中から課題を発見して解決方法を構想する場面、資料やデータをもとに考察する場面など、学習過程を意識した場面設定が教科・科目を問わず見られます。

[受験案内] 出願書類や手続きに関するガイドが入っている。現役生は高校を通じて入手する。
9月中旬までに配付と説明。

[受験料] 以下の受験料が9月下旬までに必要。
3教科以上・・・18,000円、2教科以下・・・12,000円
※ 成績開示請求をする場合は、別途800円必要。
※ 個別（二次）試験出願時に各大学が定めた受験料が別途必要。

[出願] 現役生は高校へ提出。9月下旬

[受験] 令和7年1月18日（土）、19日（日）に実施。受験会場は福岡県内各会場。
問題冊子は持ち帰りが可能なので自己採点に備えて、自分の解答を記しておく。

[自己採点] 試験後に発表される正解・配点を基に、学校で自己採点したのち、集計を行っている予備校等へデータを提出。志望校の合格判定の目安のデータが3～4日後に、返送されてくる。

[各大学へ出願] 自己採点の結果を検討して各大学へ出願。ただし私立大の「共通テスト利用方式」では、共通テスト前に出願を締め切る大学も多い。また、出願期間は短いので受ける予定の国立大学の願書を事前に準備しておくのが無難である。

(2) 令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法等

教科	グループ	出題科目	出題方法等	科目選択の方法等	解答方法等	試験時間(配点)
国語		『国語』	「現代の国語」及び「言語文化」を出題範囲とし、近代以降の文章、及び古典(古文、漢文)を出題する。 大問数及び配点は、近代以降の文章が3問110点、古典が2問90点(古文・漢文各45点)とする。		マーク式	90分 (200点)
地理・歴史 公民	(a)	1.『地理総合、地理探求』 2.『歴史総合、日本史探究』 3.『歴史総合、世界史探究』 4.『公共、倫理』 5.『公共、政治・経済』		左記出題科目の6科目のうちから最大2科目を選択し、解答する。 ただし、(a)の4と5の組合せ、(b)と同一名称の(a)1~5との組み合わせの2科目を選択することはできない。なお、受験する科目数は出願時に申し出ること。	マーク式	1科目選択 60分 (100点) 2科目選択 130分 (うち解答時間 120分) (200点)
	(b)	『地理総合/歴史総合/公共』	(b)は「地理総合」、「歴史総合」、「公共」の3つを出題範囲とし、2つを選択解答する(配点は各50点)。			
数学	①	『数学Ⅰ、数学A』 『数学Ⅰ』	「数学A」については、下記の2項目に対応した出題とし、全てを解答する。 〔図形の性質、場合の数と確率〕	左記出題科目の2科目のうちから1科目を選択し、解答する。	マーク式	70分 (100点)
	②	『数学Ⅱ、数学B、数学C』	「数学B」及び「数学C」については、下記の4項目に対応した出題とし、そのうちの3項目の問題を選択解答する。 〔数列、統計的な推測、ベクトル、平面上の曲線と複素数平面〕		マーク式	60分 (100点)
理科	①	『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』 『物理』 『化学』 『生物』 『地学』	『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』については、「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」の4つを出題範囲とし、そのうち2つを選択解答する(配点は各50点)。	左記出題科目の5科目のうちから最大2科目を選択し、解答する。 なお、受験する科目数は出願時に申し出ること。	マーク式	1科目選択 60分(100点) 2科目選択 130分 (うち解答時間 120分)(200点)

外国語	『英語』 『ドイツ語』 『フランス語』 『中国語』 『韓国語』	『英語』は、「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」及び「論理・表現Ⅰ」を出題範囲とし、【リーディング】と【リスニング】を出題する。原則として【リーディング】と【リスニング】の両方を受験する。なお、【リスニング】には、聞き取る英語の音声を2回流す問題と、1回流す問題がある。 『英語』以外の科目は、【筆記】を出題する。	左記出題科目の5科目のうちから1科目を選択し、解答する。ただし、科目選択に当たり、『ドイツ語』、『フランス語』、『中国語』及び『韓国語』の問題冊子の配付を希望する場合は、出願時に申し出ること。	マーク式	『英語』 【リーディング】 80分(100点) 【リスニング】 60分(うち 解答時間30分) (100点) 『ドイツ語』 『フランス語』『中国語』 『韓国語』 【筆記】 80分(200点)
情報	『情報Ⅰ』				60分(100点)

備考 1 『』は大学入学共通テストにおける出題科目を表し、「」は高等学校学習指導要領上設定されている科目を表す。また、『地理総合/歴史総合/公共』や

『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』にある“/”は一つの出題科目の中で複数の出題範囲を選択解答することを表す。

2 地理歴史及び公民で2科目を選択する受験者が、(a)のうちから1科目及び(b)を選択する場合において、選択可能な組み合わせは以下のとおりである。

- ・(a)『地理総合、地理探求』と(b)「歴史総合」及び「公共」の組み合わせ
- ・(a)『歴史総合、日本史探求』又は『歴史総合、世界史探求』と(b)「地理総合」及び「公共」の組み合わせ
- ・(a)『公共、倫理』又は『公共、政治・経済』と(b)「地理総合」及び「歴史総合」の組み合わせ

3 地理歴史及び公民並びに理科の試験時間において2科目を選択する場合は、解答順に第1解答科目及び第2解答科目に区分し各60分間で解答を行うが、第1解答科目及び第2解答科目の間に答案回収等を行うために必要な時間を加えた時間を試験時間とする。

4 リスニングは、音声問題を用い30分間で解答を行うが、解答開始前に受験者に配付したICプレーヤーの作動確認・音量調節を受験者本人が行うために必要な時間を加えた時間を試験時間とする。

(3) 共通テストを利用した大学入試の合否判定と特徴

- [国公立大学] ○ 一般選抜は、ほとんど、「共通テスト」+「個別(二次)試験」の総合得点で合否判定。
- 大学・学部によっては、共通テストの得点だけで、第1段階選抜を行うところもある。
- 学校推薦型選抜や総合型選抜で共通テストを課す場合も少なくない。

- [私立大学] ○ 私立大の約9割が、共通テストを「共通テスト利用方式」「共通テスト・独自併用方式」などの形で、合否判定に利用。

(4) 共通テストの入試教科と科目の組み合わせ

[国公立大学] 7教科8科目が大半であり、新課程入試は理科の科目の指定が各大学で異なり、指定科目を十分に確認する必要がある。特に理科の科目選択に注意を要する。

[私立大学] 選択教科は幅広く、様々である。例をあげると次のような科目構成になる。

【文系型】外国語、国語、「地歴・公民、数学」から1～3科目など

【理系型】外国語、数学、理科 から 1～3科目など

※ただし、中堅上位から難関大では4教科4科目～5教科7科目の入試もある。
各大学で異なるので十分に確認をすること。

(5) 「共通テスト」出題の特徴

- ・出題されるのは「マーク式」の問題のみとなっている。
- ・英語で問われるのは「読む」「聞く」の2技能。
- ・高校の授業で学んだ知識・技能に加えて、思考力・判断力・表現力を一層重視するものになる。

(6) 「共通テスト」の英語リスニング

共通テストの英語の配点は、リーディング・リスニングそれぞれ100点ずつです。ただし、その得点を入試でどのように扱うか（配点比率）は大学により異なります。リスニングの読み上げ回数は、問題により異なり、「1回読み」と「2回読み」が混在します。要点を把握する問題、複数の情報を図表からの情報と統合させて答える問題など、思考力・判断力を試す問題が出題されています。

(7) 今から始める「共通テスト対策」

共通テストで求められる思考力・判断力・表現力や読解力は、短期間で身につくものではありません。日ごろから「考える」習慣をつけることが大切です。高1のうちから、ただ問題をこなすだけでなく、「なぜ?」「ほかには?」と考えながら学習に取り組むことを意識するとよいでしょう。また、本や新聞を読んで意見を書いてみたり、ニュースなどの身近な話題を家族や友達と話し合ったりすることも、自分の考えを理由とともに表現する練習となります。

- 書籍や新聞を読む習慣をつける
- 身近な課題を、教科で学ぶ内容と結び付けて考える
- 「なぜ?」「ほかには?」と考えながら学ぶ
- 自分の考えを根拠や理由とともに表現する

また、共通テストについては、新聞やニュース、インターネットなどでこまめに調べ、情報を収集しておくことが大切です。

私立大学の入試について

(1) 私立四年制大学の一般選抜

私立大学の一般選抜は、概ね1月下旬～2月中旬に設定されています。文系学部は英語・国語・地歴（公民）または数学の3教科、理系学部は英語・数学・理科の3教科が一般的な受験教科です。最近ではそれぞれの大学で入試科目や配点に工夫をこらし、私立大学の入試は多様化しているので自分の志望校の受験方式について十分に調べておく必要があります。

入試科目を1～2科目としたり、特定科目の配点比率を高くしたり、学科試験を課さずに小論文や論述試験で選抜する方式が導入されています。しかしメインは3教科型入試です。受験科目を安易に減らさずに3教科型入試の対策を基本としましょう。

(2) 学校推薦型選抜（指定校制・公募制）および 総合型選抜

私立大の学校推薦型選抜では、「公募制」「指定校制」の両方を実施している大学が多く、成績（評定平均値）、基礎テスト、小論文、面接などによる人物評価などによって合否が決まります。「公募制」の推薦では、他大学との併願を認めない「専願」が条件になっていることが多いですが、「併願」が可能な大学もあります。「指定校制」の推薦では、原則として「専願」となります。総合型選抜は、課題解決型・資格型・探究/実践型などの形態もあり、面接・小論文、志望動機や学部・学科に対する適性、入学後の意欲などで総合的な人物評価を行って選抜する方法です。総合型選抜の場合、その大学への入学意欲も選抜基準の一つとなっていることが多く、「専願」がほとんどです。

◆併願可能な大学の一例（令和6年度入試の例） **HP要確認！*

文系四年制大学	筑紫女学園大（公募B）
理系四年制大学	福岡工業大（公募）／久留米工業大学（総合）（公募後期12月） 近畿大 産業理工学部（総合・公募）
看護四年制大学	聖マリア学院大学（公募）／西九州大学（公募I期11月・公募II期12月） 帝京大学（公募・総合）／第一薬科大学（公募①11月・公募②12月）

◆学校推薦型選抜（公募）の一例（令和6年度入試の例） **HP要確認！*

○九州産業大学

【出願資格（抜粋）】

- ・合格した場合は必ず入学する者（専願制）ただし、建築都市工学部は他大学の学校推薦型選との併願可
- ・第3学年1学期末までの全体の学習成績の状況が3.1を満たす者
※芸術学部は、①芸術、家庭、情報のいずれかの教科の学習成績の状況3.5以上
②美術(デザインを含む)、家庭、情報のいずれかの専門学科の学習成績の状況3.5以上

【選考方法（抜粋）】

- ・経済、商学部：面接[調査書、大学入学希望理由書（600字程度）、推薦書（Rubric評価）を参考とする]（50点）
基礎テスト[英語（50点）、国語・数学選択(50点)]（60分、100点）

- ・理工学部 : 面接[調査書、大学入学希望理由書(600字程度)、推薦書(Rubric評価)を参考とする](50点)
基礎テスト[英語(25点)、数学(50点)](60分、75点)
 - ・芸術学部 : 面接[調査書、大学入学希望理由書(600字程度)、推薦書(Rubric評価)を参考とする](50点)、
(1)基礎テスト[英語(50点)、国語・数学選択(50点)](60分、100点)
(2)小論文(90分、100点) (3)鉛筆デッサン 3h(180分、100点)
- ※(1)(2)(3)の中から1科目選択。 ※鉛筆デッサン 3hは、画用紙(544mm×382mm)を使用。

◆総合型選抜の一例（令和6年度入試の例） *HP要確認！

○久留米大学

【出願資格（抜粋）】

- ・各学部・学科（専攻）を専願とする者

【選考方法（抜粋）】

- ・文学部心理学科：模擬授業レポート（100点）、模擬授業グループディスカッション（100点）
口頭試問および面接、書類選考（100点）
- ・経済学部 : プレゼンテーション（自己アピール）・口頭試問、面接、書類
（すべて段階評価）

（3）出願手続きについて

①募集要項の請求

受験雑誌・大学案内・各大学のホームページ等で確認して請求してください。テレメールを利用する方法が簡単です。

テレメール <https://telemail.jp>（パソコン・ケータイ）

※学校推薦型選抜（指定校制）受験の場合は、学校（進路指導部）で一括して募集要項を取り寄せるが、公募制受験の場合は各自で大学の募集要項を請求する必要があります。

②出願に必要なもの

- ・写真 ・願書（正確に丁寧に楷書で記入し、誤字・脱字に注意する。）
- ・調査書 ・推薦書（学校推薦型選抜受験の場合に必要となる。）
- ・検定料 …… 大学によって異なります。必ず各自で確認してください。

③出願の際の注意事項

- ・出願書類、締切日の確認 ……（締切日必着か締切日消印有効かを確認する）
※出願開始日に発送できるように準備すること。
- ・郵送の場合は必ず「書留」で送付（受領書を保管しておく） ※「速達」が望ましい。
※学校推薦型選抜（指定校制）に限り、進路指導部で取りまとめて郵送する。

(4) 主な私立大の共通テストを利用した受験方式の例（令和6年度入試）

◆福岡大学

<前期日程・共通テスト併用型>…共通テストの得点と福岡大学の一般選抜の得点を組み合わせる。

注意：出願しようとする学部・学科の一般選抜（前期日程：3科目）を受験しなければなりません。

【経済部、商学部の場合】

前期日程（2科目）	+	共通テスト（2科目）	=	総点
外国語・国語 ※指定 各100点		外国語 国語 地理歴史・公民 数学 理科 ※高得点2教科2科目 各100点		400点

【工学部の場合】

前期日程（2科目）	+	共通テスト（2科目）	=	総点
数学・理科 ※指定 各100点		外国語 国語 数学 理科 ※高得点2教科2科目 各100点 ※電子工学科は、外国語 指定		400点

★学部・学科により、教科・科目の指定科目や選択科目、配点の違いがあります。オープンキャンパスや説明会、入試要項で間違いのないように確認しましょう。

★共通テスト利用入試（共通テストの成績を送ることで合否が確定する入試）もあります。

◆九州産業大学

<共通テスト利用選抜（前期日程）>…共通テストの成績を基に判定し、大学独自の個別試験等はない。

【国際文化学部、人間科学部、経済学部、商学部、地域共創学部の場合】

共通テスト（指定2科目）	+	共通テスト（選択1科目）	=	総点
外国語・国語 ※指定 各100点		①地歴・公民 ②数学 ③理科基礎 ④理科 ※①②③④の中から1教科1科目選択 各100点 ※③は2科目で1科目分として扱う。		300点

【理工学部、建築都市工学部の場合】

共通テスト（指定2科目）	+	共通テスト（選択1科目）	=	総点
外国語・数学 ※指定 各100点		①国語 ②地歴・公民 ③理科基礎 ④理科 ※①②③④の中から1教科1科目選択 各100点 ※③は2科目で1科目分として扱う。		300点

★選択科目については、複数科目を受験した場合は最高得点1科目を用いる。

★一般選抜・共通テスト併用型選抜（A方式・B方式）もあります。

各大学により、色々な違いがありますので、必ず志望大学の入試要項をしっかりと読みましょう。

<共通テスト利用入試のメリットとデメリット>

- メリット
 - ①共通テストの結果のみで複数の大学に出願が可能。
受験生の負担が少なく受験チャンスが増える。国公立大とも併願しやすい。
 - ②共通テストは地元で受験できる（遠隔地まで受験に行かなくてよい。)
- デメリット
 - ①募集人員が一般選抜に比べると少なく、出願する受験生は多い。
高倍率の選抜になる可能性が高く、合格ラインも高くなる傾向がある。
 - ②共通テスト受験前に出願期限がある「事前出願方式」の場合も。
早めの志望大決定が求められる。